

## 1 学年先端科学技術講演会

### 「SDGsの地球的課題を解決するための変容的行動(Transformative Action)とは何か」



2021年11月4日(木)の6・7時間目に、宮城教育大学教授の市瀬智紀先生による先端科学技術講演会が行われました。

「SDGsの地球的課題を解決するための変容的行動とは何か」と題して、SDGsの課題について、身近なところに焦点を当てる内容で、私たちはワークシートやパネルなどを用いて考えながら講演を聴きました。

#### 〈SDGsとは〉

「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された「1 貧困をなくそう」～「17 パートナリシップで目標を達成しよう」で構成された17の目標のこと。(右の図を参照)



#### 〈講演会の内容〉

##### (1) 概要

- ①現在の研究では、エネルギーを削減してどのように社会に貢献しているかが大切になっている。  
→企業がSDGsを取り入れていると説明することで、投資が集まり、SDGsの達成を目指せる社会へ
- ②日本では不平等やジェンダーの問題解決が遅れている。
- ③私たちが将来の持続可能な社会を作っていくため、学校教育の中でもSDGsを取り入れられている。
- ④課題研究の手順  
インターネットでの調査→テーマの絞り込み→実験・調査→データの分析  
持続可能な思考を持つこと大切!
- ⑤UNESCO「何のために学ぶのか」→自己変容と社会変容のため  
具体的には…社会を良い方向に向かせる、人間として生きることを学ぶ

##### (2) 実際の活動

他校生の活動の紹介：フードバンク／「他人事から自分事へ」というテーマでの発表(虐待、いじめなど)

実際、平成30年度の東京大学教養学部の推薦入試では、次のような小論文課題が出題されました。

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)では、2030年までに達成をめざす17分野が示されている。このうち、学際科学科に関係の深いものとしては、目標7(エネルギー)、目標14(海上資源)、目標15(陸上資源)などがあげられる。これらの目標(17目標に入っていれば、上であげた目標以外でも良い)からあなたの関心のあるものを1つ取り上げ、どのような問題が現在起きているのかを説明しなさい。

その上で、そうした問題の解決につなげるために、あなたが学際科学科でどのように学ぼうと考えているか、入学後の計画について、具体的に詳しく述べなさい。

このように、SDGsは大学入試や就職でも問われる「知っていて当然の知識」となっています。

## 生徒の感想 講演を聞いた76回生から寄せられた感想の一部です。

○SDGsという言葉は、中学生のときからよく聞いていたので、自分では理解しているつもりでしたが、全く理解できていないのだと分かりました。SDGsは単なる環境に関する目標だと思っていました。しかし、今回の講演を聞いて、SDGsとは自分から遠いものではなく、自分にも関係があり、1つ1つの目標に対してしっかりと考え、行動していくことが大切だと思いました。世界には経済格差や貧困の差、男女の不平等などのまだまだ解決できていない問題があることを知り、この講演会はそれらのことについて考えるいい機会だったと思います。

○講演会で他の高校でのSDGsに関する取り組みを見て、身近なことから問題点を発見し、社会的な課題として認識すること、その課題を他人事ではなく、自分事として捉えることが大切だと思いました。これからの学術研究においてテーマ設定が研究の内容を左右する大きな鍵になるので、SDGsの要素も含めたテーマを考えていきたいです。世界の様々なことに興味を持って、視野を広げ、より良い研究ができるように今回学んだことを生かそうと思います。

○SDGsということばは前々からずっと知ってはいたが、真剣に考える機会は今までなかったので新鮮だった。17項目もあるという時点でおどろいたが、その1つ1つの守備範囲がとても広いのだと感じた。だがSDGsが最近では企業のセールスポイントとして使われる中、しっかりSDGsを達成しているものは少ないのではないかと、ということも少し感じた。学術研究の範囲はとても広い。そのためSDGsの何を成し遂げたいのか、ということが曖昧にならないようにしたい。また、ほかの学校のSDGsについての研究発表を聞くことができたので、それも自分の発表に生かしていきたい。自分が何気なく心がけたことでも、SDGsに繋がるのだ、ということに気づくことができたので的を射た的確な発表ができるようにしたい。

○国連をはじめとして、UNESCOやUNICEFなど多くの国際機関が地球の問題を解決するために活動しているということを改めて実感しました。SDGsの貢献度が高い企業として自動車企業やIT企業などの様々な種類の企業が挙げられていて、SDGsへのアプローチの方法は1つではなく、自分にできる方法・範囲でも誰かを助けることができるのだとわかりました。わたしたちは日常生活で特に不便を感じることも、環境問題に危機感を覚えることもありません。しかし、世界では命の危機にさらされている人々や、家を失ってしまった人々など、想像もできないような苦しみを覚えている人たちがいます。それに目を向けず、何事もなかったように笑ってごまかすことはしたくないと思います。また、今は影響が無いとしても、このまま何もせずに生活していたら、いつか私たちの幸せも脅かされてしまうでしょう。今こそ自分の意識を変えて、地球的な規模の課題にしっかりと向き合っていくことが必要だと感じました。「持続可能」というワードをよく耳にします。聞こえはいいのですが、それを本当に実現することは難しそうだと思います。未来の世代まで幸せが続くようにすることは重要なことですが、そのために今を生きる人々の命や生活をないがしろにすることもあってはならないと思います。未来を見通しながらも現状の問題に対処していく。そのバランスが非常に難しいと感じました。自分にできることを見つけて、1つ1つ取り組んで現状を変えていけるようにしたいです。

○SDGsについて、今までは何となく「良いものらしい」というイメージしか持っていませんでしたが、講演を通じてSDGsについての理解を深め、自分でSDGsについてよく考えることができました。「SDGsは『大人の押し付け』『かっこつけ』」という意見もあると聞き、そのような見方をする人もいるのだと気付いて驚きました。「あらゆる」「状況に応じて」などのあいまいな表現や、「2020年までに」と書かれている目標が達成されていないことから、SDGsに対して否定的な意見を持つ人がいるのも確かに頷けます。しかし私は、SDGsは私たちの未来を守るために達成すべき重要な目標だと考えています。目標の達成を他人任せ、大人任せにするのではなく、自分たちに出来ることから少しずつ取り組んでいきたいと思っています。他の高校や中学校でのSDGsに関する取り組みも知ることができ、興味深いと感じました。このような取り組みがさらに広まれば、学生も当事者意識をもって目標の達成に取り組んでいくことができるのではないかと思います。これから始まる私たちの学術研究では、研究をSDGsと関連づけて社会的意義のあるものにしていきたいと思っています。また、講演で、SDGsについて興味・関心を持ったので、身近な地域の出来事・問題と関連づけて積極的に関わっていこうと思います。



## 編集後記

今回の講演を受けて多くの新たな情報を得て、SDGsを身近に感じる人が多くいたように思います。問題が世界規模のものであったとしても、対処方法までもがそうではありません。これからの学術研究では、私たち高校生でも解決の糸口を見つけることができるということを念頭に置きSDGsと真摯に向き合いながら、未来を創っていく自覚と責任を感じながら取り組んでいきましょう。